

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

韓国は漸進的に利上げを継続する見通し(Asia Weekly (12/6～12/10))

～インドでは景況感の改善を反映し、生産は底打ちを果たす～

発表日: 2010 年 12 月 13 日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/6 (月)	(台湾) 11 月消費者物価 (前年比)	+1.53%	+0.90%	+0.56%
12/7 (火)	(フィリピン) 11 月消費者物価 (前年比)	+3.0%	+2.5%	+2.8%
	(豪州) 金融政策委員会 (政策金利)	4.75%	4.75%	4.75%
	(台湾) 11 月輸出 (前年比)	+21.8%	+18.9%	+21.9%
	11 月輸入 (前年比)	+33.8%	+18.1%	+27.9%
12/9 (木)	(豪州) 11 月失業率 (季調済)	5.2%	5.2%	5.4%
	(韓国) 金融政策委員会 (政策金利)	2.50%	2.50%	2.50%
	(マレーシア) 10 月鉱工業生産 (前年比)	+3.0%	+2.1%	+5.6%
12/10 (金)	(フィリピン) 10 月輸出 (前年比)	+26.4%	+36.0%	+46.4%
	(中国) 11 月輸出 (前年比)	+34.9%	+23.6%	+22.9%
	11 月輸入 (前年比)	+37.7%	+24.5%	+25.3%
	(インド) 10 月鉱工業生産 (前年比)	+10.8%	+8.7%	+4.4%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【韓国】 ～利上げを見送るも、先行きの景気は底堅さが続く。年明け以降も緩やかな利上げが続こう～

9 日、韓国銀行は定例の金融政策決定会合を開催し、政策金利を 2 回ぶりに 2.50% に据え置いた。同行は先月、4 ヶ月ぶりに金融緩和の見直しを再開し、政策金利を引き上げた。しかし、高騰が続いてきた農産物価格は一服し、11 月の消費者物価は前年同月比 +3.3% と前月 (同 +4.1%) から伸びが鈍化して当局の目標域 (2.0～4.0%) に収まり、利上げの必要性は低下していた。さらに、7-9 月期の実質 GDP 成長率は前期比年率 +3.0% と景気の減速感が高まり、利上げを見送る要因になったと思われる。なお、当局は会合後の会見において、来年半ばにかけて物価上昇圧力は残り、今後も断続的に金融政策の正常化を進める方針を示唆した。さらに、先行きの同国経済について、欧州の債務問題や北朝鮮問題などリスクはあるものの、潜在成長率並みの景気拡大が続くとみている。10 月の鉱工業生産は前月比 ▲4.2% となり、調整圧力は高まっているが、米国のクリスマス商戦の堅調を受けて足元の輸出は拡大しており、生産は底堅く推移すると見込まれる。年明け以降も緩やかな利上げが続けられよう。

図 1 韓国 政策金利の推移

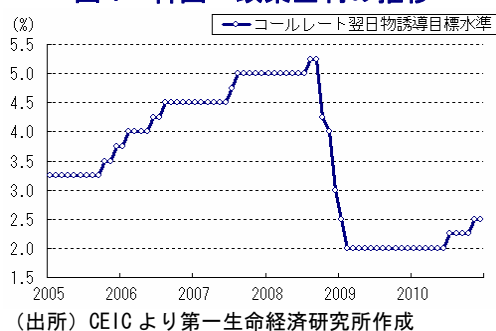


図 2 韓国 消費者物価の推移(前年比)

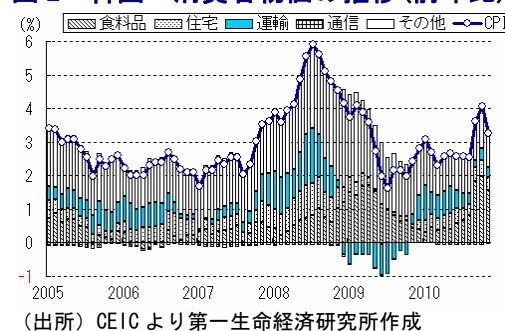
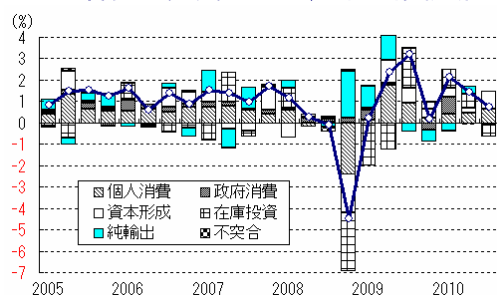
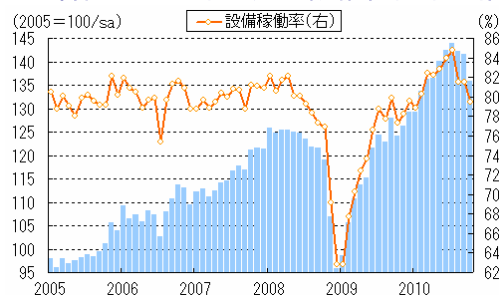


図3 韓国 実質 GDP 成長率の推移(前期比)



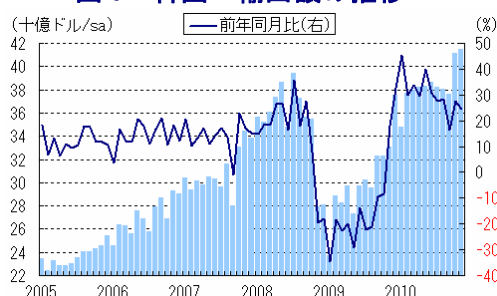
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 韓国 鉱工業生産と設備稼働率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 韓国 輸出額の推移

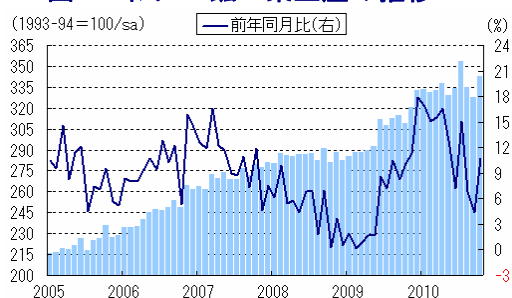


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【インド】 ～製造業PMIの改善を受けて生産は底打ちを果たす。旺盛な内需を背景に生産拡大は続く～

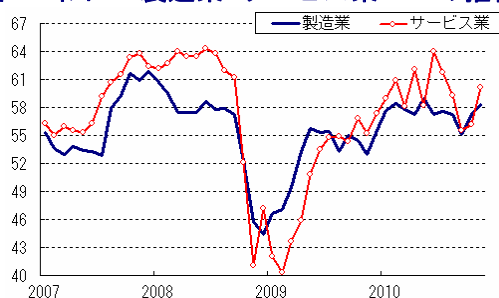
10日に発表された10月の鉱工業生産は、前年同月比+10.8%と前月(同+4.4%)から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値ベースでは、前月比+4.5%と前月(同▲1.9%)から増加に転じた。同国の製造業PMIは10月以降2ヶ月連続で改善し、この動きを映した回復となっている。なお、概ねすべての産業で生産は増加に転じたが、特に製造業は過去2ヶ月間大幅に落ち込んだ反動で急回復をみせた。7-9月期の実質GDP成長率は、内需がけん引して前年比+8.9%に加速しているが、先行きも生産は強い基調が続くと見込まれる。

図6 インド 鉱工業生産の推移



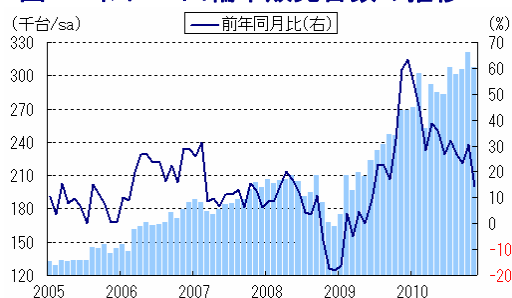
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 インド 製造業・サービス業 PMI の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 インド 四輪車販売台数の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【台湾】 ～原油価格の高騰や、雇用改善による賃金上昇圧力も影響し、物価上昇圧力は高まっている～

6日に発表された11月の消費者物価は、前年同月比+1.53%と前月（同+0.56%）から伸びが拡大した。前月比も+0.13%と前月（同+0.06%）から加速した。上昇基調が続いてきた食料品価格は落ち着いたものの、原油価格の高騰でエネルギー価格が上昇し、雇用環境の改善による賃金上昇を背景にサービス価格も上昇するなど、物価上昇圧力は高まっている。7-9月期の実質GDP成長率は前期比年率+0.1%となり、景気の減速感は顕著になっているが、10月の鉱工業生産は前月比+4.1%と底打ちし、輸出受注も堅調に推移している。先行きの景気は、緩やかな拡大が続くと見込まれ、物価上昇圧力は燦るであろう。

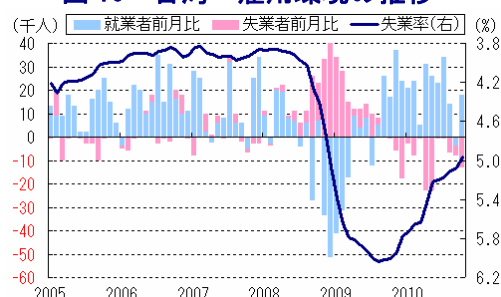
7日に発表された11月の輸出は、前年同月比+21.8%と前月（同+21.9%）から伸びはわずかに鈍化した。なお、前月比では+0.5%と前月（同+3.7%）に続いて増加し、米国クリスマス商戦の堅調を受けて底堅く推移している。他方、11月の輸入は、前年同月比+33.8%と前月（同+27.9%）から伸びが拡大。前月比も+8.1%と前月（同+1.2%）から増加し、原油価格の高騰などが輸入額を押し上げている。結果、貿易収支は+4.14億ドルと前月（+29.82億ドル）から大幅に黒字幅が縮小した。

図9 台湾 消費者物価の推移(前年比)



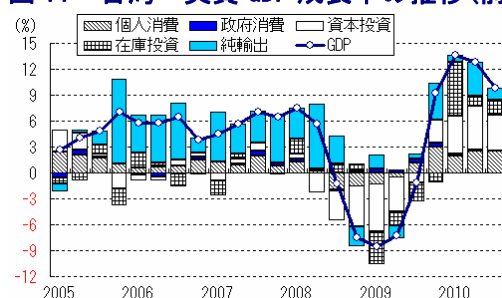
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図10 台湾 雇用環境の推移



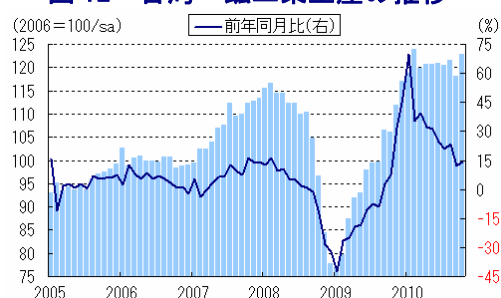
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図11 台湾 実質 GDP 成長率の推移(前年比)



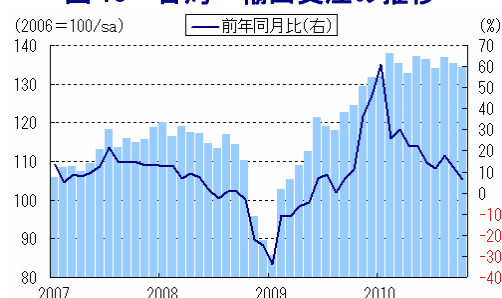
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図12 台湾 鉱工業生産の推移



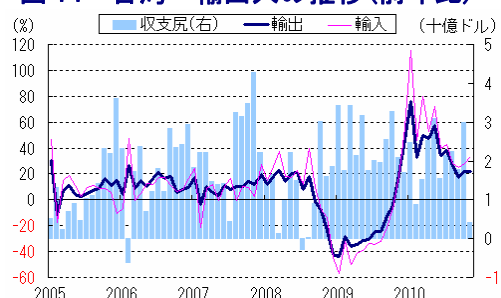
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図13 台湾 輸出受注の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図14 台湾 輸出入の推移(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上